



「言葉を交わそう」

給食室の下膳コーナーで、私が自分の使った食器を片付けていたところ、横から年中さんが「ごちそうさまでした！美味しかったです♥」と、作業中の調理員さんに話しかけていました。私が慌てて、「今日も美味しかったね」と語りかけると、「うん！いつもありがとう♥」と、また調理員さんに笑顔で応えていました。何だか傍にいる大人が子どもに大事なことを思い出させてもらった気がしました。神野小学校学校通信9月号には、「ありがとう」が、自然に言える人になってもらいたい、2学期大事にする言葉にしたいと記載がありました。日常の何気ない場面でも、“ありがとう”を聞くと、心がホックリして笑みが自然にこぼれます。

児童クラブでも、“ありがとう”“どういたしまして”等々の言葉がたくさん聞けるように優しい雰囲気づくりに気を配りたいと思います。

10月のおたのしみ

- 戸外活動
- 10月の壁面製作
- 椅子取りゲーム
- 切り絵製作

10月の学童児童数

	9月末 在籍数	10月利用 なし人数	10月 入所人数	10月 初日人数
1年生	9	0	0	9
2年生	10	2	0	10
3年生	1	0	0	1
計	20	2	0	20

児童の様子

2学期が始まって1ヶ月が過ぎました。子どもたちは運動会の練習を毎日頑張っているようで、小学校での練習の様子をいつも報告してくれています♪

さて、さんこう児童クラブでは、けん玉がとても上手な友達が披露してしてくれてからけん玉ブームの到来です！「もしもしかめよ、かめさんよ〜♪」と歌に合わせて、リズムよくけん玉を大皿、小皿にのせる姿を見て、「すごい！僕もやってみる！」と張り切って練習を始めました！最初は上手くできず、悔しそうな様子でしたが、「持ち方をこうするといいよ！」とアドバイスをもらって再度挑戦すると少しずつ上手いくようになってきました(*^▽^*)絶賛練習中の子どもたちです(*^-^*)けん玉があればご家庭でもぜひやってみてください♪



「もしかめ」歌いながらできるよ♪

上にあげる時に膝を曲げるといいよ！

なるほど！やってみよう！



できた！乗せれたよ！



「世界一周」っていう技もできるよ！



◇ 10月の目標 ◇

「忘れ物の確認をする！」

おやつ後は一生懸命宿題に取り組む子どもたち。途中で休憩をはさみながら自分のペースで頑張る子もいます♪しかし、休憩中にお迎えがきて、後からしようと置いていた宿題を忘れて帰ってしまう事があります(>_<)

そこで、10月は帰るときに忘れ物がないようしっかり確認する事ができるように関わっていきたいと思います！

西九州大学・短期大学部寄稿文

“怒り”感情と子育て・育児 ～“怒らない”ことが大切…??～

心理カウンセリング学科 助教 松本 麻希

今現在、私は保育園に通う2人の幼い子どもの育児に、日々奮闘しております。バタバタと忙しい時間帯に限って、子どもたちがぐずぐずと駄々をこね、大きな声で泣きわめいたり、育児や家事のタスクをフル回転でこなす中で、やっとできた自分の時間に一息つこうとした矢先、きょうだい喧嘩が勃発したり、せっかく作ったご飯を食べてくれなかったり（まだまだ出てきそうですが…）。子ども中心の生活に中々自分の思い通りにことが進まないことが続き、だんだん心に余裕がなくなってくると、「ああああー！もうっ！！」と思わず感情的になりそうな時があります。一方、我が子たちの様子を見てみると、子どもも子どもなりに、似たような状況や出来事があると感じます。例えば、本当は遊びたいけれど、下の子（きょうだい）に玩具を取られ中々返ってこずに腹をかいいたり、自分が一生懸命に時間を掛けてつくったブロックが何かの拍子で崩れてしまい投げ散らかしてしまったり、勝負ごとに負けてしまい、悔しくて荒々しくあたってしまったり…。子どもたちのこのころの中にも、「ああああー！もう！」と怒ってしまいたくなる状況があり、幼いながらもその“怒り感情”と闘っているように見受けられる場面が多々あります。

人は、喜び・怒り・悲しみ・楽しみ…というような、様々な感情を併せ持った生きものです。基本的な人の4つの感情を総称した“喜怒哀楽”という表現の中にも含まれる「怒り」感情。世間的には、少し“やっかい”で“悪モノ”に思われがちな感情ですが、人間にとって非常に大切な感情の一つだと私は考えます。近年、「怒らない育児」「怒らない子育て」というようなフレーズをよく目にしたり耳にしたりすることが多いですが、このフレーズの文字通り、“怒らないこと”が本当に大切なのでしょうか…？おそらく、このフレーズから本当に伝えたいメッセージは、『怒りの感情にフタをして抑え込むのではなく、怒りの感情の根源にある自分の気持ちに向き合い、正しく怒りを表現し、相手に伝えること』なのではないでしょうか。怒りの感情は、“二次感情”とされており*1、ある感情（一次感情）が発生した後に発生する感情とも言われています。怒りのもととなる“一次感情”にどのような気持ちや思いが隠れているのか。ここに向き合うことは、怒り感情と上手く付き合い表現していくためにも、非常に大切なことであり、親にとっても子どもたちにとっても必要なプロセスだと思います。この一次感情と向き合うためには少しコツが必要です。深呼吸をしたり一旦その場から離れてこころの避難をしたり、ゆっくりと数を数えて別のことに意識を向けてみたり…自分なりのコツを探りながら、自身のこころの声（一次感情）に耳を傾けてみてください。小さなお子さんの場合は、周囲の大人が「悔しかったね」「まだ遊びたかったね」「譲ってほしかったね」と、その状況からうかがえる子どもの気持ちを代弁してあげたり、一緒に探ってあげることで、子どもの怒り感情の背後に隠れた“本当のメッセージ”を互いに知る機会にも繋がるかと思います。

*1) 子どもと関わる人のためのアンガーマネジメント（一般社団法人日本アンガーマネジメント協会監修／合同出版）